

Book Preview

富山高校図書館 2024.3



『なぜ炭治郎は鬼の死を悼むのか』

久保 華誉【著】

なぜ、『鬼滅の刃』はこれほどまでに人々の心をひきつけてやまないのか。その答えは、「昔話」にあった。鬼滅の刃を深く読み解くと、そこには様々な伝承に語られる「物語の遺伝子」を見て取ることができる。本書では、『鬼滅の刃』が具体的に古今東西の伝承の物語、「桃太郎」「竹取物語」からグリム童話まで、『鬼滅の刃』へと受け継がれる物語の要素を読み解き、その魅力の本質を明らかにする。

『論文の教室』

戸田山 和久【著】

論文って何だ！？それは、「問い」に対して明確な答えを主張し、その主張を論証するための文章である。主人公は作文の苦手な大学新入生。彼が読むに耐える論文をなんとか仕上げるまでを時系列で辿りながら、論理的に文章を書くためのノウハウを伝授。論文のアウトラインの作り方を丁寧に紹介するほか、主張の説得力を高めるためのコツを明快に説く。インターネットなど情報へのアクセス法もさらに詳しく解説、巻末付録も充実した決定版。



『歴史の本質をつかむ「世界史」の読み方』

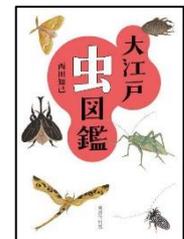
伊藤 敏【著】

世界史の各時代を成り立たせている根本的な要素や性質（＝歴史の本質）を徹底的に読み解き、「世界史を再発見」する一冊。個々の歴史事象は単独で起きているわけではありません。歴史にはそれぞれの時代を方向づけている原動力となるものがあります。本書では、まず通史で世界史を俯瞰したあと、各時代の本質的な特色をあぶり出しながら、世界史の全体像をつかみつつ、歴史の「なぜ」を明らかにしていきます。さらに歴史の細部を丹念に読み解いていくことによって、より具体的に時代に通底する本質に触れることができ、歴史の理解が深まります。

『大江戸虫図鑑』

西田 知己【著】

江戸時代にもペットのように飼われた虫、害虫として駆除された虫、漢方薬の素材になった虫などがいました。虫のおかげで観光地になった場所もあります。現代の子どもたちに大人気のカブトムシやクワガタは、江戸時代の子供たちには人気があった気配がありません。当然、江戸時代にも虫はたくさんいましたが、現代人と虫との関係とはかなり違うようです。江戸時代の虫だけをフューチャーした書籍はほぼありませんので、歴史好きから虫好きまで、大人から子どもまでもが楽しめる1冊になっています。



『ドールハウスの惨劇』

遠坂 八重【著】

鎌倉にある名門・冬汪高校二年の滝蓮司は、眉目秀麗だが変人の卯月麗一とともに、生徒や教師から様々な依頼を受け解決する“便利屋”として活動している。ある日、道を歩けばスカウトが群がり、学内にファンクラブすら存在する超絶美少女・藤宮美耶から、蓮司はある依頼を受ける。美耶は双子の妹・沙耶とともに、狂気さえ感じさせる母親によって、異様すぎる管理下に置かれていた一まるで“人形”のごとく。蓮司と麗一がその依頼を引き受けたがゆえ、惨劇の幕は開く！舞台は、双子の姉妹とその母が住む白亜の豪邸。ふたりは特異な家族にまつわる、おぞましい事件の真相をひもといてゆく。第25回ボイルドエッグズ新人賞受賞作。